朝日書体 組み見本

朝日新聞旧明朝 L（扁平 80%）45pt

今、伝えたい豊かな移ろい

本文／朝日新聞明朝 R（正体）10pt、見出し／朝日ゴシック B（正体）12pt

四神相応の理想の地

この世の平安楽土を望んだ桓武天皇は、七九四年に平安京を造営して平安遷都を行った。東に鴨川に棲む青龍、西に山陰道に棲む白虎、南に巨椋池に棲む朱雀、北に船岡山に棲む玄武の四神を、京都盆地の地形に配して守られる風水思想からの理想的な地であった。

平安京は、東西に約四・五キロメートル、南北に約五・二キロメートルの長方形で、朱雀大路の北部中央に置かれた大内裏から南に向かって左が左京、右を右京と呼び、碁盤目に設計されている。現在の京都の町割は、豊臣秀吉の時代に洛中と洛外を分ける御土居が築かれた都市造営によったものが基になっている。

平安京以前に、京都一帯の山城盆地は山代・山背といわれ、奈良時代には多くの豪族が勢力を持っていた。さらにさかのぼると、太古の湖底が盆地となり、水田地帯へと開墾されたようである。

本文／朝日新聞明朝 R（扁平 85%）10pt、見出し／朝日明朝 H（扁平 85%）14pt

桓武天皇を祀る朱塗りの色鮮やかな社殿の平安神宮は、京都の守護神として、一九一一年に平安建都千百年を祝して創建された。

六世紀に伝来した仏教は、宗教色よりも豪族たちによる鎮護国家の考え方であった。これに代わる新しい仏教として、桓武天皇は最澄らを遣唐使として送り込んだ。この一行には空海もいた。唐から帰国した二人が学んだのは密教の考え方で、最澄は比叡山延暦寺に天台宗の総本山を、空海は嵯峨天皇より教王護国寺・東寺を賜り真言密教として、天皇や貴族にもたらした。

宮処とよばれる王朝絵巻

摂関政治の時代は、藤原氏の最盛期になり、この世の栄華は道長の宇治の平等院鳳凰堂の浄土教美術にもあらわれている。藤原時平との政争に敗れ、太宰府に左遷された菅原道真は、博識で三筆・三蹟といわれる学問の神・天神さまとして北野天満宮に祀られている。北野は歌舞伎発祥の地ともいわれる。

陰陽師安倍晴明は魔界との接点にあたる。一条戻橋で式神を操っていたことは説話集などにもある。晴明桔梗紋の星形は、木火土金水の五行の思想が込められて魔除の効力があるといわれている。

本文／朝日新聞旧明朝 L（扁平 80%）10pt、見出し／朝日新聞ゴシック R（扁平 80%）12pt

中世の変貌と、近世の町衆力

一五八五年関白に就任した豊臣秀吉は、聚楽第を建造したり京都の城下町化に着手した。短冊形の新しい地割りをし寺町を作った。さらに、御土居を築き、洛中と洛外の都市化が形成され、京の七口といわれる出入口もできた。また、太閤として北野大茶湯や醍醐の花見を催している。豊臣政権も長く続かず、徳川家康が一六〇三年に江戸に幕府を開いた。京都の守護として二条城を築城したが、朝廷は京都御所にあった。

江戸時代の始め、出雲の阿国がややこ踊りを見せ新奇なかぶき踊りが流行り、鴨川四条河原は茶屋など京の繁華街として栄えた。また遊興の花街も上七軒、六条柳町のちの島原、伏見撞木町にあった。

さらに、西陣の織物、堀川の友禅染、東山の京焼の大衆的なものから、琳派へ続く本阿弥光悦の木活字の嵯峨本など、学問的教育的な文化的芸術的なものまで盛んだった。宮庭では桂離宮、修学院離宮、仙洞御所の三離宮の数寄屋造りの建築と回遊式庭園がある。

朝日新聞旧明朝 L（扁平 80%）10pt

やがて幕末になると、政治や思想、国論をめぐり、禁門の変など、動乱に巻き込まれていった。大政奉還を経て、1868年に明治維新となり、江戸が東京と改名され、首都を東京に移した。

近代化への再生、現代へ

朝日ゴシック D（扁平 85%）12pt

京都は近代都市として発展させるためのさまざまな策を施した。新たにつくった新京極通は娯楽街でもあり、キネマの天地の始まりでもあった。都をどりの開催で五花街の季節の踊りは観光として今でも目玉。琵琶湖疏水事業は、京都の人々の生活と産業を支えた。千年以上にわたり宮処である京都は、文化的な美意識を心のふるさととして、伝統と革新、進取の気風そのままであり続けている。

朝日新聞明朝 R（扁平 85%）10pt

朝日新聞横用明朝 R（扁平 89%）24pt

日本の春夏秋冬、
自然や風土から
育まれてきた心情や
美意識が最たる京都。
平安京の以前より、
歴史を背景に連綿と
日本美を伝えている。